

はじめに

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。年が明け、最後のTermに入りました。最近、オーストラリアでの生活も残り1ヶ月を切り、あと何回海に入れるかな、あと何回How's going?と聞けるかな、と寂しさを覚えると同時に、日本へ帰るのも楽しみになってきました。



サーフィンをする私

日本食が恋しい……

急遽、日本食が恋しいブームが到来しました。それもそのはず、SNSを開けば、美味しそうなおせちやお雑煮の写真。年が明けたというのに、こんなにも実感が湧かない年明けは、初めてでした。生まれて初めて、家族と過ごさない、おせちないお正月を迎えたのです。

私は、浜松の冬が好きではありませんでした。理由は、雪も降らないのに寒いからです。しかし、この冬の寒さこそが日本食をととても美味しくしていたことに気がつきました。日本食欲を満たすため、奮発しました。家ではカレーも作りました。



暖暮のラーメン

2,000円くらいします。ただ、他のお店の料理も1,500円以上するのが基本なのでお得な気がします。



Tokyo KitchenのSushi

14時半になると、半額セールが始まります。練り物が好物の私は、半年以上ぶりの味に涙しました。

Summer Term

ホリデイも終わり、最後のTermが始まりました。New Venture Creationの1科目を履修しています。この授業は、将来、企業家を目指す人向けの授業です。Summer Termは、開講される授業が少なく、興味のある分野を選択することができませんでした。特に企業する予定はないですが、新しい学びが楽しみです。また、今まで履修してきた科目は、個人でエッセイやレポートといった課題が課されていました。今回、この科目では、グループでプレゼンビデオを提出する必要があります。グループワークも楽しみです。

North Stradbroke Island

久しぶりに、留学生向けに開かれるツアーへ参加しました。この島は、世界で2番目に大きいと言われている砂の島です。フェリーで30分ほどかけて、島に着きました。野生のカンガルーを見ることができました。



North Stradbroke Island



Noosa Heads

Noosa Heads

観光地として良く知られている、Sunshie CoastのNoosaへ行ってきました。景色を眺めながら、10kmウォーキングをしました。とても素敵な場所で、1日では足りなかったです。またいつか訪れたいです。



美味しかったジェラート

しあわせとは

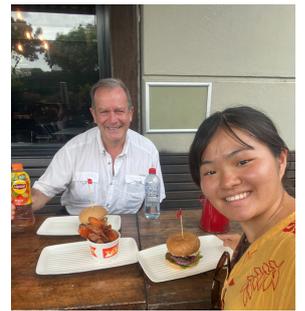
さいごに、とてもしあわせだと感じた瞬間を共有させてください。ある日の出来事です。朝、友だちとサーフィンへ行き、その後、彼女のお勧めするタコスを食べに行きました。メキシコ出身の彼女が、そっくりそのまま故郷の味だと言うタコスを食べました。私が今まで食べたタコスがタコスではなかったことを知りました。それはさて置き、とても心が満たされたのです。なぜ自分がしあわせだと感じたのか、考えてみました。それは、サーフィンの「楽しい」とタコスの「美味しい」を共有できたからだ、と。しあわせとは何か、これまでうまく言語化できたことはありませんでした。今の私は、楽しいと美味しいを誰かと共有できること、と表現したいと思います。残りの留學生活だけでなく、これからの人生においても、自分がしあわせになれる方法を知っていたら、どんな環境でも自分らしくいられると思います。私の人生に、みんなの人生に、しあわせが訪れますように。



ネパール出身の友達がピクニックにMomo(日本でいう餃子)を持ってきてくれました。日本の餃子とは異なり、スパイスの辛さがありましたが、美味しかったです。オーストラリアに来てから、色々な国、年齢、バックグラウンドを持つ人と出会いました。各国に友だちができたこと、その友だちの出身国へ興味を抱いたり、身近に感じたり・・・たくさんの出会いに感謝です。

別れがあれば、再会することもある

ホストファーザーのマザーのお宅にステイしていた、ドイツ人の高校生が帰国しました。一緒に走ったり、サーフィンをしたりと、オーストラリアライフを謳歌した大切なMateです。私が50km完走できたのは、いつも鼓舞してくれた、彼女のおかげでもあります。将来の目標が明確で、それを言葉にできる姿をととても尊敬しています。またどこかで、走ろう。



少しややこしいことを言います。日本で知り合った、アメリカ在住のコロンビア人のおじさんとオーストラリアで再会しました。おじさんと私の出会いは、2023年、浜松です。WhatsAppを交換し、定期的にやりとりをしていました。おじさんの兄弟がメルボルンに暮らしており、そのついでにゴールドコーストへも足を伸ばしてくれました。メルボルンとゴールドコーストは決して近くはありませんが、Harunaに会えるなら、と来てくれました。スマートフォン上で繋がってさえいれば、誰とでもまた会える世界を生きていることを実感しました。そこには、お金や時間をかけてまで、また会いたい、と思える関係をお互い築いているかどうかことが重要であることを学びました。

終わりに

日本にいる家族や友人が恋しくなった年明けが過ぎ、最近、はまだ日本へ帰国していないにも関わらず、オーストラリアが恋しい日々が陥っています。

この留學報告書は、来月のFeberuay 2025をもって最後となります。ここまで読んでくれた方、ありがとうございます。最後の月も、全力で駆け抜けて行く予定です。また来月、お会いしましょう。



とても月が明るかった日